



現状と課題

- ◆自然科学の分野に関する基礎的・基本的な知識や技能、経験が不足しており、科学的な根拠に基づいた思考力・判断力および活用の確実な習得が必要。
- ◆授業の中で主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成が十分ではない。
- ◆各自が根拠に基づいた考えを発表しつつ、疑問・指摘・反論を経ることで、お互いが高め合う力を育成していく場が必要。



達成目標

- ◇自分の実験・観察等の体験や、実体験・書籍での理解・インターネットでの情報収集を通して、自然科学の概念・法則を主体的に理解する。
- ◇授業の流れを固定化し、児童が安心して取り組める環境をつくる。
- ◇問題解決を行い、科学的な見方や考え方から論理を組み立てて他人の意見を聞き、自身の論拠を見直す流れを身につける。

中学年

取組の重点

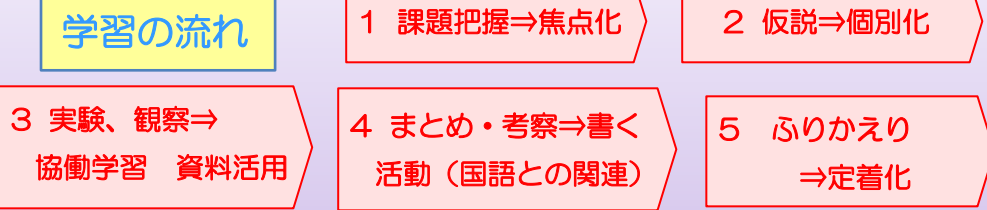
- ①日頃の学校生活の中で、自然の中の事象にふれる機会を積極的に取り入れ、自然科学に関する生活経験を積み予想を立てられるようにする。
- ②観察、実験にあたっては、調べる目的や視点（以前との違いや季節、起きる現象など）を明確にして、予想やまとめにいかせるようにする。（関連：国語）

高学年

- ①生活経験や既習内容から予想を立て、観察、実験の方法を考えて問題解決に取り組み、予想と結果を関連づけて考察できるようにする。
- ②実験結果から新たな疑問点や可能性を見だし、次時の学習につなげていけるように、必要に応じて友達の意見と合わせながら、まとめられるようにする。また、学習のまとめを自分の言葉で書くようにする。（関連：国語）



学習の流れ



- ・本日の授業のねらいはなにか。・どんな手立て、効果があったか。
- ・その結果何ができるようになったか、子ども達は自覚できたか。

個別最適な学び

- ・生活経験、学習経験をもとにした仮説の設定
- ・観察、実験を生かした考察
- ・ICTを活用した学習（観察、記録、調べ学習）
- ・資料の丁寧な読み取り（関連：国語、社会）

協働的な学び

- ・グループによるプロジェクト学習
- ・結果の分析と意見交換
- ・場の設定、ICT等道具の工夫 ・発表の工夫

学年での取組状況チェック

	3年	4年	5年	6年
2学期				
3学期				

- 3月：年間指導計画への位置づけ
- 4,5月：県及び全国学力・学習状況調査（国・算）の実施
- 9月：上記調査結果、1学期授業内テストの分析、国語・算数との関連を意識した新たな学力向上プラン策定

